

# 「農のある暮らし」通信

No.1 (2024/5)

グローバルに考え、ローカルに動く 一般社団法人TUKURU

## 「オーガニック・ガーデンをつくろう！」講座

講師：曳地義治さん・トシさん  
4/28(日) 大久保地区センターにて

オーガニック・ガーデンづくりに取り組む植木屋さん 曳地ハルさん&トシさんご夫妻の「オーガニック・ガーデン講座」に参加しました。企画したのは、多摩平にお住まいの本橋さん。本橋さんのお宅をシェアハウスに立て直し、庭をコミュニティガーデンにしよう！という「もとはしさんち ぶろじゅくと」に合わせて、まずは設計士さんなどのプロジェクトメンバーや庭づくりのボランティアさんなどが集まって、イメージを膨らませよう！という会でした。

オーガニック・ガーデンとは、その地域の特色を活かし、多様性豊かで、自然のめぐりのある庭のこと。もちろん農業や化学肥料は使いません。ハルさんは元々ふつうの植木屋さんでしたが、庭づくりに農業を使うことに疑問を感じて、一念発起。ご夫婦でオーガニック・ガーデンづくりにチャレンジしたとのこと。紙コップを使った生態系モデルやクイズも交えて、まるで夫婦漫才のようなお二人のお話に、参加者みんな引き込まれていました。



曳地ハルさん&トシさん



本橋さん

### 毛虫が大量発生すると、生態系がよみがえる!?

ハイタカ・シジュウカラ・マツシャクトリムシと3種だけのシンプルな生態系を考えるクイズ。ハイタカとは、翼を広げて60~90センチほどの日本最小の猛禽類だそうです。

Q: ハイタカは1年で何匹のシジュウカラを食べるでしょう?  
→ A: 779匹。

Q: シジュウカラは1年で何匹のマツシャクトリムシを食べるでしょう?  
→ A: 12万5000匹。

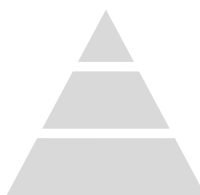
ということは、 $779 \times 125,000 = 97,375,000$ … ハイタカ1匹でおおよそ1億匹のマツシャクトリムシを食べている計算になります!

このことは、マツシャクトリムシの数が少しでも減ると、ハイタカは生きていけないことを意味します。環境の変化は、生態系の上に位置する生き物ほど影響を受けやすい…。生態系のピラミッドは「弱肉強食」というより、ピラミッドの下の方にいる多くの生命に支えられていることを表している。だから、毛虫の大量発生は、壊れてしまった生態系を創り直す第一歩にもなるのです。

### 雑草は本当に敵なのか!?

「害虫」や「雑草」という呼び名は、人間の都合でつけたものでしかありません。それに、除草剤を使うと耐性を持つものが現れて、かえって繁殖してしまうこともあるのです。

よく観察をすると、「雑草」にも自然界の中で果たしている役割があることが見えてきます。草の根は雨や風による土の流出を抑えたり、マルチとしての役割も果たします。他にもたとえば、マメ科の植物は土に窒素を蓄えたり、スギナは土の酸性度を弱めたり、ヨモギはテントウムシを引き寄せておく「ハンカープランツ」となる。蒸散率の高いドクダミは気温を調節するし、イヌダテは土の重金属を浄化する。だから、除草してしまうのではなく、5センチほどに草刈りをして「雑草力」のあるガーデンをつくっていくのです。



はじめは虫を見ただけで「きゃー！」と叫び声をあげていたトシさん。それが次第に庭に息づく生き物たちの姿に魅惑され、今ではご夫婦で、雑草や虫たちと一緒に庭づくりを楽しんでいらっしゃいます。自然の息づかいを五感で感じながら、生態系のバランスに気づかうことで、多様な草木が根つき、さまざまな虫や鳥たちが訪れ、棲まう。そんなオーガニック・ガーデンはさまざまな人が集い、さかざまな出会いが生まれる場にきっとなることでしょう。「もとはしさんちのコミュニティガーデン」の今後に注目です!

今後の「もとはしさんち ぶろじゅくと」の予定  
5/26(日) 植物レスキュー



講座の後に本橋さん宅を見学